

標準的電子カルテ推進委員会
中間論点整理における検討結果報告

関連組織・団体の有機的な
連携体制の構築

2005年1月27日

国立大学法人 熊本大学

医学部附属病院

高田 彰

2005/1/26

中間論点整理メモ

- 標準的電子カルテの推進基盤として、産・官・学の枠組みで役割を明確化した上で、関連組織・団体の有機的な連携体制の構築を図っていく。
- 標準的電子カルテがもたらすシステム互換性や開発コストの削減効果をより大きくするために、開発と導入に関する経験を蓄積し、そのノウハウを利用する方法を十分考慮する。

2005/1/26

アジェンダ

- EHRの観点から
 - 国内の標準化体制整備
 - 公共の医療情報ネットワーク
 - EHR情報技術のフィージビリティスタディ
- e-Japanの観点から
 - 医療分野における情報技術ロードマップ

2005/1/26

国内の標準化体制整備

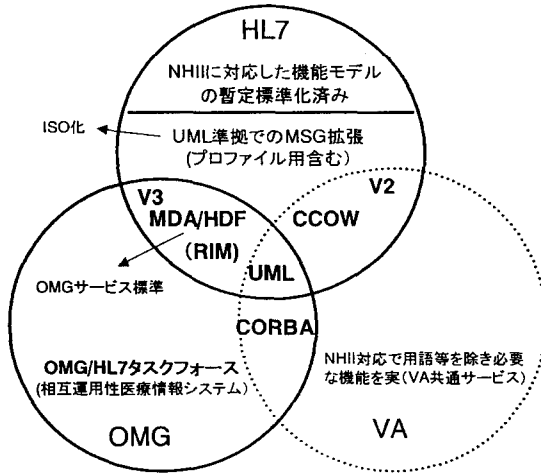
～役割分担の明確化～



2005/1/26

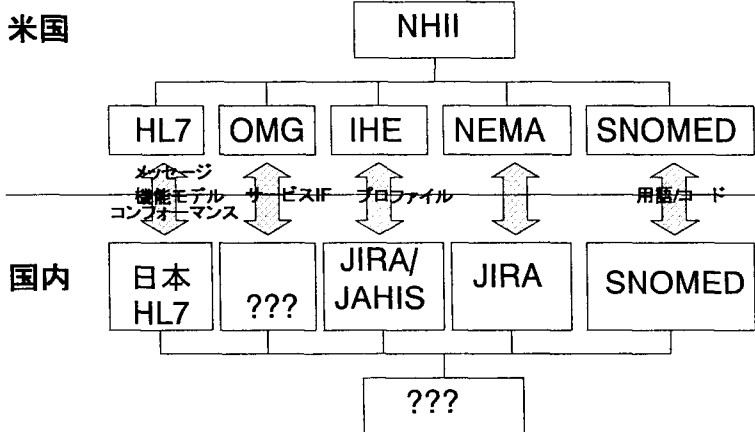
EHR情報技術の標準化組織

相互運用性のある医療情報システムの実現



2005/1/26

EHR関連の標準化体制整備



- 国内のEHR標準化に関する役割の明確化
- 海外のEHR標準化組織とのリエゾン窓口の明確化
- 国内のEHR標準化に関する連携体制の確立

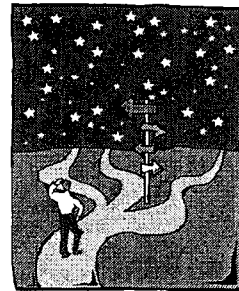
2005/1/26

6

公共の医療情報ネットワーク

欧米方式 vs 日本方式

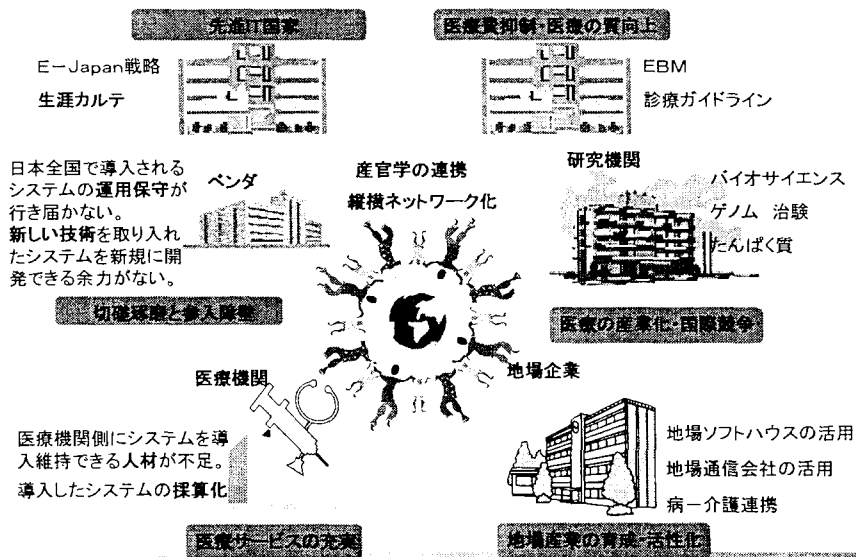
強力なトップダウン ???
 豊富な予算 ???



2005/1/26

7

産業としての保健・医療・福祉



2005/1/26

8

社会的基盤としての保健・医療・福祉 情報システム

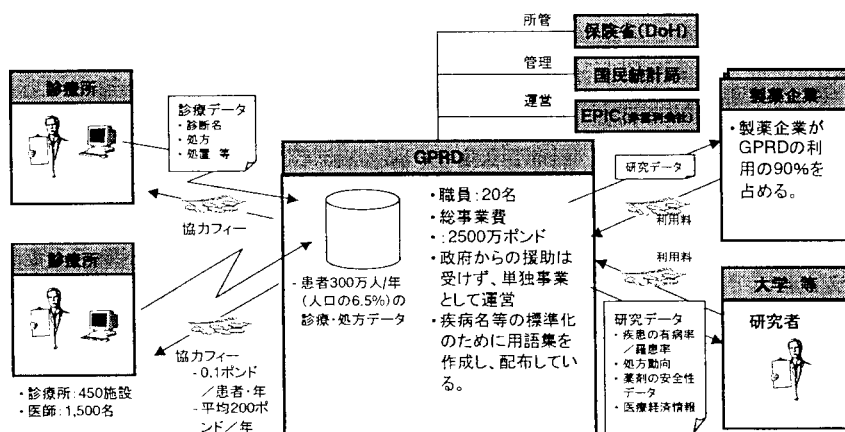
- ・ 医療情報交換／共有の多チャンネル化
 - 将来の連携拡大につながる道筋
- ・ 医療情報交換／共有のためのシステム維持管理
 - 運用コストの負担者不在
- ・ 受益者負担での運用コストの捻出
 - 受益者が費用を負担できるコンテンツの整備
- ・ 公共的情報資産の明確化
- ・ 公共的情報資産提供サービスの仕組み作り

2005/1/26

9

海外事例: General Practice Research Database

・英国のGPRDでは、1,500名の協力診療所医師より診療データを収集し、製薬企業、大学の研究者等に研究データの提供を行っている。

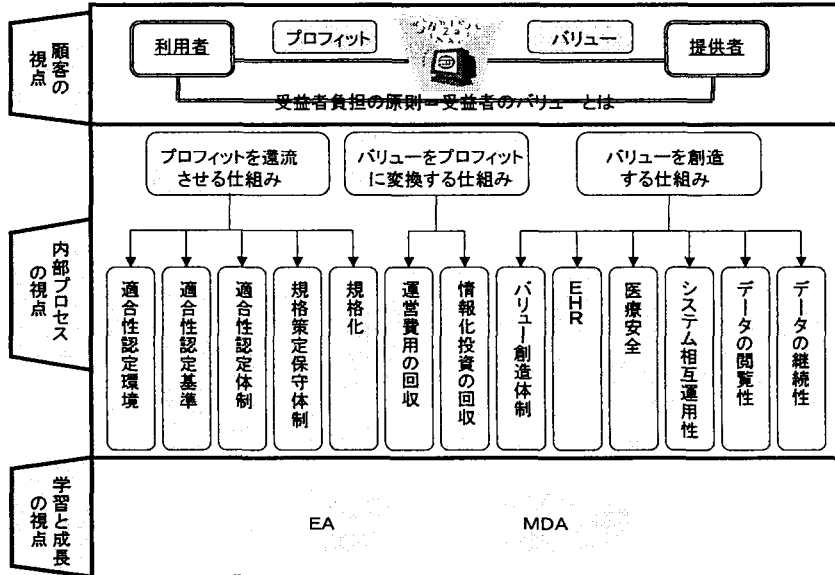


イギリスは診療所がゲートキーパーとしての役割を果たしているため、診療所からデータを収集することで幅広い疾患に対応することができる。

2005/1/26

10

バリューとプロフィット



2005/1/26

EHR情報技術のフィージビリティ

2005/1/26

EHR情報技術のフィージビリティ

- 国内のEHRフィージビリティ実施のための体制が必要。
 - 海外EHR情報技術の調査
 - 海外EHR情報技術の国内でのフィージビリティ評価
 - EHRに関する標準策定
 - 策定した標準の妥当性確認
 - EHR導入を促進する施策
 - 標準適合(コンFORMANCE)検証のための体制

2005/1/26

産・官・学連携の目的

開発・導入経験の蓄積

→ノウハウ化

→情報共有

システムの共同開発
を通じた共通部品の
仕様策定

「標準」評価・策定

システム要件定義

共通ガイドライン作り

ユーザ会的な活動

現行情報システムの課題の把握

→ベンダーとの共通理解

エンドユーザとのコミュニケーション

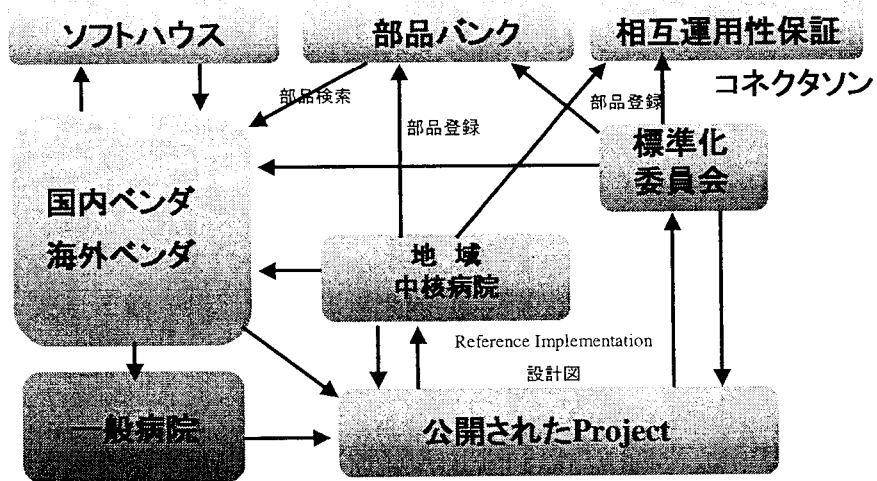
→ユーザニーズ/シーズの明文化

→フィードバック/フィードフォワード
の仕組み

2005/1/26

具体的な進め方として

産官学連携の枠組み

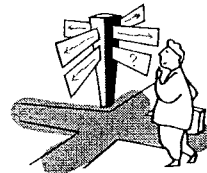


2005/1/26

15

医療分野における情報技術ロードマップ

～e-Japanの観点～



2005/1/26

16

医療分野における情報技術ロードマップ

- 情報処理推進機構が平成17年1月に発表。
- 「e-Japan 重点計画2003」で示されたIT 利活用重視先導7分野である医療、食、生活、中小企業金融、知、就労・労働、行政サービスの中から応用分野として医療を選択し、当該分野において今後必要とされるソフトウェア技術のロードマップを作成する。
- 具体的なターゲット
 - 医療安全性向上のためのソフトウェア技術
 - 医療知識共有支援システムの構築
 - 在宅ホームドクター
- 幅広い連携が必要。

2005/1/26

17

有機的な連携に関する提言

- EHR対応に向けた国内標準化体制の整備が必要。
 - 海外標準化団体とのリエゾン推進
 - 国内の標準化団体の連携
- 公共の医療情報ネットワーク運営維持のための仕組み作り
 - バリューとプロフィット
- EHR関連情報技術のフィージビリティのための体制作り
 - 「標準」の調査／フィージビリティ／評価／策定
 - 「標準」適合の検証
- 他の組織とのコラボレーション
 - 情報処理推進機構
 - 情報処理相互運用技術協会

2005/1/26

18